

自分たちの「まち」を守るために

自主防災組織の必要性

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」、昨年7月の「宮城県北部地震」9月には「十勝沖地震」が発生しています。

このような大地震から**自分や家族の命を守るためには**、さまざまな災害発生に備え、普段から十分な対策を講じておく必要があります。しかし、ひとたび大地震が発生すると、災害の拡大を防ぐためには、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難を伴う場合があります。このような時、**毎日顔を合わせている隣近所の人たちが集まり、お互いに協力し合いながら**、防災活動に取り組むことが必要です。

災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんが**ひとつ**になって防災活動に取り組むための組織、これが「**自主防災組織**」です。

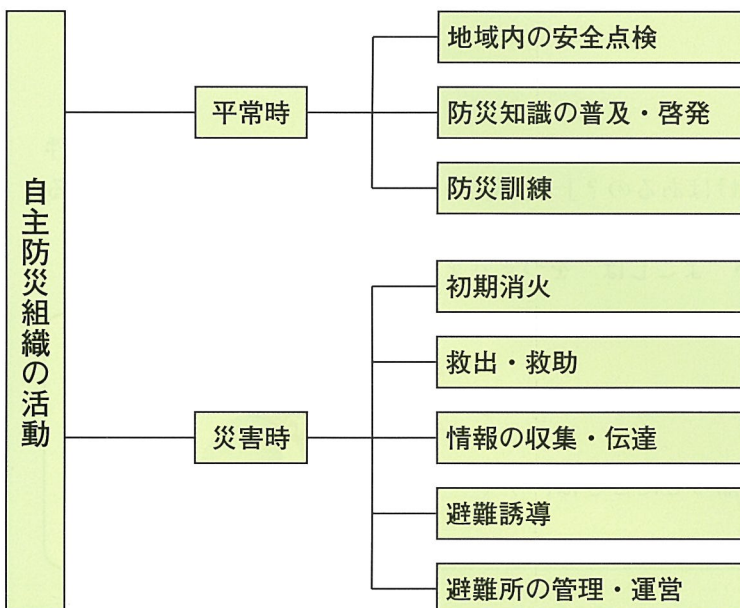


事例

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」では、道路・鉄道・電気・ガス等の都市基盤の崩壊や職員自身の被災から、発災直後は防災関係機関の活動が十分に機能しませんでした。その一方で、隣近所の多くの人が協力し合い、救助活動に参加して尊い命を守った事例や、初期消火を行い延焼を防いだ事例などが報告されています。

自主防災組織の役割

自主防災組織は、大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し被害を最小限に食い止めるため、日頃から地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練に参加するなど地震被害に対する備えを行い、また、実際に地震が発生した際には、初期消火活動、被災者の救出・救助、情報の収集や避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。



地域の危険性や家庭内での安全点検及び各種の防災訓練を通して、日頃から大規模な災害に備えるための活動です。

大規模な災害が発生したときに、人命を守り、災害の拡大を防ぐために必要な活動です。

